

霧多布地区コミスクだより

第1号

2020. 7. 20

Kiritapputiku CS Report No.1

学校運営協議会は、平成30年度に浜中町のコミュニティ・スクールモデル校として霧多布小学校から始まりました。その後、昨年度に霧小中と一緒に活動の母体として発足した霧多布地区学校運営協議会（以下コミスク又はCS）は、今年で2年目となります。組織を立ち上げてからまだ日が浅く、一步前進できればとの想いで今年度スタートしました。

国内において、2月中旬からじわじわと感染を広がりだした新型コロナウイルス感染症による影響が広範に渡る中、5月に第1回目のコミスク開催を目指したものの感染拡大防止により延期となりましたが、先日6日に何とか第1回目の協議会を、霧多布中学校を会場に開催するに至りました。

1 学校運営協議会委員紹介

役職	委員	区分	備考
会長	島脇 秀俊	地域住民	共和町内会長
副会長	東海林 圭太	地域住民	霧多布地区
副会長	春日 良太	地域住民	霧多布地区
	大野 裕幸	地域住民	町子供会育協会長
	須川 和伸	地域住民	霧多布地区
	川原 亮	地域住民	霧多布地区
	箱石 憲博	地域住民	暮帰別町内会長
	渡部 幸平	保護者	霧中 PTA 会長
	吉崎 裕之	保護者	霧小 PTA 会長
	佐藤 岳彦	学校	霧中校長
	池田 倫知	学校	霧小校長

にも、皆様のお力添えお願いいたします。

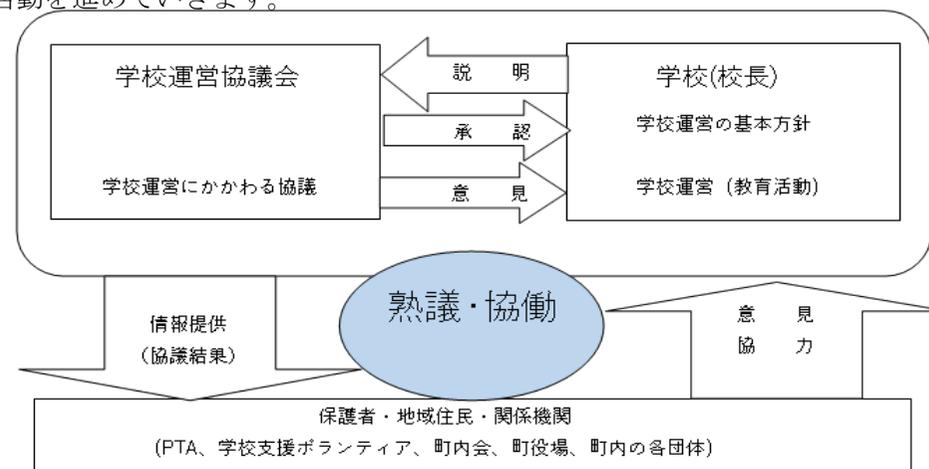
コミュニティ・スクール（CS）を運営するために中心となって話し合い、支えていただく学校運営協議会委員の皆様は、左のとおりです（敬称略）。

今年度は、中学校が窓口となり、小学校とともにCSを進めていきます。開始にあたり各委員様を佐藤健二教育長様より委嘱させていただきました。「地域とともにある学校づくり」を目指すため

2 コミュニティ・スクール（CS）

今年度のCSを進めるにあたり、改めてコミュニティ・スクール（CS）について紹介をいたします。

コミュニティ・スクールは、学校と保護者・地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させ（熟議）、一緒に活動すること（協働）をとおして、地域全体で子どもたちの成長を支えるしくみのことです。事務局は隔年で小中交互に行い、会長はじめ各委員、地域住民と学校が霧多布地区CSとしてともに活動を進めていきます。



3 CSのメリットは

CSを導入することによって、児童・生徒、保護者、地域住民、教職員それぞれにメリットがあり、地域全体で子どもたちを見守り、育てていくことにつながります。

子どもにとって

- ・学びや体験が充実し、思いやる心が育つ
- ・地域の担い手としての自覚が育つ

保護者にとって

- ・学校の教育活動がより理解できる
- ・地域の中で子どもが育つ安心感が高まる

地域住民にとって

- ・経験を活かして、生きがいとなる
- ・学校が地域とつながり、足を運べる

教職員にとって

- ・地域の人や環境を学習活動に生かせる
- ・子どもと向き合いよさをより発見できる

4 第1回学校運営協議会

7月6日、今年度第1回目の学校運営協議会が開催されました。当初の予定では5月に行い、7月には第2回目、「火防線花いっぱい運動」の参加、実施となる予定でしたが、コロナ禍で延期を余儀なくされました。第1回目、年度の最初ということで、はじめに浜中町教育委員会 渥美清孝学校教育指導室長より浜中町学校運営協議会についての説明がありました。次に役員選出、会長に島脇秀俊様が推薦され、また副会長には東海林圭太様、春日良太様の両氏が選出、全会一致で承認されました。その後、小学校・中学校それぞれの学校運営方針の説明があり、委員の皆様からのご承認をいただきました。今年度のCSを進めるにあたって、事務局より基本的な考えや活動予定等について概要の説明を行いました。この中で、今年度は感染症防止対策を踏まえた協議会運営が求められることと実際の活動についても実施できない状況を見通し、「組織体制」「来年度への展望」を探ることに重きを置くことを確認し、本会を終了いたしました。

昨年度（2019年度）のCSの成果と課題

【成果】

- 「霧多布で小・中9年間で目指す子どもの姿」を設定することができた。
- 小中学校に一つの学校運営協議会が設置されていることの意義・メリットを確認することができた。
- 小中でCSに取り組んでいることが、保護者に浸透してきている。

【課題（今後に向けて）】

- 「めざす子どもの姿」実現に向けて、課題を焦点化し、解決に向けて具体的な取り組みをすすめていく。
- 小中と地域がより連携・協働、地域の児童・生徒の成長を支えるしくみ、人（教員）の異動に際しても持続するCSの在り方と体制の検討・構築。
- CSの考えや取り組みについてより一層地域住民に理解を図る体制づくり

今年度のCS活動推進計画（予定）

◇今年度の活動については、感染症拡大防止対策の情勢に鑑みて、縮小、自粛、中止等も含みながら進める。このような実情の中、今年度のゴールは、昨年度の活動実績や課題をこの1年を通して、次年度につなげることを目指す。

- (1) 第1回学校運営協議会 7月6日（月） 於：霧多布中
 - ①委嘱状交付(今年度委員会から発出)、役員選出
 - ②2020年度小・中学校運営基本方針について
 - ③今年度の活動計画およびスケジュール(概要)について 他
- (2) 第2回学校運営協議会 11月25日(水) 於：霧多布小
 - ①霧多布で（再考）小・中9年間でめざす子どもの姿にかかわる交流[熟議]
 - ②CS活動に関わる保護者アンケート結果 ※保護者の皆様には、9月頃にアンケートを行わせて頂く予定です。ご協力をお願い致します。
 - ③小中学校での今年度の具体的な活動推進状況の交流
 - ④組織体制の運営(小中連携部・広報部・学校支援部)→今年度見送り
 - ⑤今後、次年度の活動内容にかかわる交流（見通し）
- (3) 第3回学校運営協議会 2月9日（火） 於：霧多布中
 - ①今年度の成果と課題 ②次年度の活動の方向性 ③学校関係者評価

【2020年度 CS活動のゴール】

「霧多布地区で、小・中9年間で目指す子どもの姿」と「組織体制づくり」を再考、構築し、次年度につなげる活動を明確にする。

